

取扱説明書

本製品は家庭で調理するために使うものです。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。不適切な取扱いは事故につながります。お読みになった後は、必ず保管してください。

品質には万全を期していますが、万一不具合があった場合には、ご使用前にお近くの店舗までご相談ください。

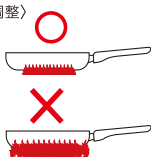
使用前の準備

- 取っ手の取り付けにガタツキなどがなく、また破損がないか確認してください。
- 食器用中性洗剤をスポンジ等に付けて十分に洗い、よくすすいでから早めに水気を拭き取ってください。

▲ 使用上の注意

- 本来の用途以外には使用しないでください。
- 初めて使用する際に、若干ニオイのする場合がありますが異常ではありません。
- **空焚きをしないでください。調理する際は、必ず油を薄く引いてからご使用ください。**
- 調理中や直後は本体、取っ手などが熱くなっています。火傷の危険がありますので注意してください。また、お子様の手に触れないようにしてください。
- ガスコンロで使用の場合、コンロの中央部に乗せて安定させて使用してください。炎が底面より大きくなるよう火力を調整してください。炎が底面よりはみ出したままで使用しますと取っ手が熱くなり、火傷の恐れや取っ手が損傷し、脱落して火傷などの事故の原因にもなります。また2口以上のコンロを使用の場合は隣接するコンロの炎が取っ手に当たらないよう、取っ手の向きにご注意ください。
- フライパンの中に長時間料理を保存しないでください。塗膜のはがれやサビ(腐食)の原因になります。
- 取っ手がゆるんだ状態で使用すると脱落して火傷の危険があります。ネジを締め直してから使用してください。
- 調理中は絶対にそばを離れないでください。発火して火災の原因となります。
- 高温になっている本体に水気の多いものを入れますと、油がはねて火傷の恐れがあります。
- 本製品の縁まで水や調理物を満たした状態で使用しないでください。コンロの立ち消えや火傷、IH調理器のプレート汚す原因になります。
- 酸・重曹等の酸性または、アルカリ性のものの使用は避けてください。腐食の原因になります。
- **塗膜保護のためにも、火力は中火以下で使用してください。**
- 金属性の調理器具をお使いの際は、角の丸いなめらかなものをご使用ください。木製、プラスチック製のものをご使用いただくとより一層長持ちします。
- フライパンの上で材料を刻んだりしないでください。
- てんぷらなどの揚げ物調理には使用しないでください。
- 調理の際は、油温を200℃以上に上昇させないでください。
- ストープの上やオープン・オープンレンジ・電子レンジでは使用しないでください。火災や故障の原因になることがあります。
- お子様の手が届かないところに保管してください。

〈火力の調整〉



▲ IH調理器を使用する時の注意

- 電源を入れて[強]で加熱すると急激にフライパンを加熱し、引火点に達することがあり、少量の油を入れた時、引火する危険があります。また、油がこげついたり、フライパンが変色(焼)や熱膨脹により変形(凸凹やガタツキ)する原因になります。火力(出力)は[中]以下で使用してください。(特に3kw以上)
- IH調理器で調理する場合は、空だきをしますと急激に温度が上昇し変形の恐れがありますので十分ご注意ください。
- IH調理器でのご使用は、加熱感がありませんので火傷にご注意ください。
- 使用直後のプレートの表面は、調理器具の熱により、高温になっておりますので取り扱いにはご注意ください。
- IH調理器でご使用になる前は、特に本製品の裏面をよく乾燥させてください。水分が残っていると蒸発する際に多少音がします。
- 加熱中に「ブーン」や「ジー」などの音(共振音)が聞こえる場合がありますが、フライパンの故障ではありません。フライパンの位置を置き換えたり、火力(出力)を調整してください。



▲ Siセンサーコンロ(温度センサー付きガスコンロ)で使用する時の注意

- コンロの中央に置いて、温度センサーが確実に沈み込んだことを確認してください。五徳の形状や調理量によって転倒することがありますので、なるべく取っ手を持ちながら調理してください。

〈温度センサーの状態〉



お手入れ方法

- 食器用中性洗剤をスポンジ等に付けて十分に洗い、水気を拭き取ってください。汚れを十分に取り除かないと、こげつきの原因になります。
- こげつき等を落とす際は、ナイフ等を使用しないでください。熱湯に浸してこげつき等を柔らかくしてから取り除いてください。
- たわし・金属たわし・みがき粉などの使用は表面を傷つけますので、使用しないでください。
- 食器洗い乾燥機での洗浄はしないでください。ご使用になる洗剤(食器洗い機用洗剤、その他のアルカリ性洗剤)によっては腐食や変色の原因になります。
- 取っ手を含む全体を水に浸して丸洗いしないでください。取っ手や取り付け部の中に水がたまり、サビの原因や再加熱のときに蒸気が噴出し火傷などの原因になります。

絵表示は一般的な注意事項を示すものであり、実際の形状とは異なります。